平 成 ２ ６ 年 度
広島市教育センター

「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」を高める小学校社会科中学年における実践的研究

－「広島県の様子」における「つなげるシート」と「つなげるマップ」を活用した指導法の工夫を通して－

広島市立五日市東小学校教諭　　諸　井　　信

研究の要約

本研究は，小学校社会科第４学年における「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」を高めるために，思考ツールを活用した指導法の工夫を行ったものである。澤井(2013)は，社会科の「考える力」とは，「もっている知識や資料活用等で得た情報を，比較・関連づけ・総合して社会的事象の特色，相互の関連，意味について考える力」であるとしている。また，その考える力を高めることについて，「比較，関連づけ，総合，再構成といった思考方法を駆使して社会的事象や相互の関連を考える力を育てること」を指摘している。

そこで，本研究では「関連づける」思考方法に焦点を当て，「関連づける」思考ツールであるコンセプトマップの要素を取り入れた「つなげるシート」と「つなげるマップ」を知識の構造図の知識の階層に合わせて活用することで，児童の「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」を高めることを試みた。その結果，児童が学習内容を関連づけて社会的事象やその特色について捉えられるようになり，指導法の工夫の有効性が示された。

キーワード：**社会的事象の特色や相互の関連について考える力，「関連づける」思考方法，「つなげるシート」，「つなげるマップ」，知識の構造図**

Ⅰ　問題の所在

『小学校学習指導要領解説社会編』(以下『解説』)では，「社会科改訂の要点」において，社会的事象の意味や働きなどについて考え，表現する力を育てることが重視する視点として挙げられている。それを踏まえて，社会的な思考力や判断力について，第３学年及び第４学年では「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力」を育てるようにすることが求められ，第３学年及び第４学年の能力に関する目標では，「地域社会における社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにすること」[1)]が示されている。

所属校で社会科について教員にアンケートを行った所，「社会科を教えるのは苦手」という回答が多く，中でも児童に思考を促すことが各自の課題として挙がっていた。自身の実践を振り返ると，知識偏重の授業にならないように，調べる活動や調べたことを発表する活動などを行っていたが，活動優先になり，児童が調べて得た情報を関連づけて社会的事象を考えたり，複数の社会的事象を関連づけて考えたりする場面を設定することができていなかった。そのため，児童が作成した製作物では，見学に行って見たり聞いたりしたことや，自分が調べたことなどをそのまま記述したものが多く，それらを関連づけて記述しているものはほとんど見られなかった。

そこで，「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」を高めるための指導法の工夫について考察することとした。

Ⅱ　研究の目的

本研究では，児童が調べて得た学習内容を関連づけて考えるための手立てとして，思考ツールを活用した指導法の工夫を通して，児童の「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」を高めることを目的とする。

Ⅲ　研究の方法

１　研究主題に関する基礎的研究
２　研究仮説の設定
３　検証授業の計画・実践
４　検証授業についての分析と考察

Ⅳ　研究の内容

１　研究主題に関する基礎的研究

(1)「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」とは何か

『解説』には，第３学年及び第４学年における「社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力」を，「自分たちの住んでいる市と県内の他地域との比較などによって人々の生活の特色について考える力や，地域の人々の生活と自然環境，伝統や文化などとの関連，願いを実現していく地域の人々の工夫や努力，協力と生活や生活環境の維持と向上との関連，地域の人々の生活や産業と国内の他地域や外国との結び付きなどについて考える力」[2)]としている。つまり，「社会的事象の特色や相互の関連について，複数の社会的事象を比較したり関連させたりして考える力」と捉えることができる。

澤井(2013)は，社会科における「考える力」とは，「もっている知識や資料活用等で得た情報を，比較・関連づけ・総合して社会的事象の特色，相互の関連，意味について考える力」[3)]と述べている。また，澤井は，その考える力を高めることについて，比較，関連づけ，総合，再構成といった思考方法を駆使して社会的事象や相互の関連を考える力を育てることが大切だとし，授業においては子どもが自らこうした思考方法を駆使するように意図的に指導することが重要だと指摘している。

以上のことから，本研究では，「社会的事象の特色や相互の関連を考える力」とは，比較，関連づけ，総合，再構成といった思考方法を駆使して複数の社会的事象を関連づけたり，学習して得た知識や情報を関連づけたりして，社会的事象の特色や相互の関連を考える力であると捉える。

(2)　「関連づける」思考方法とは

本研究では，比較，関連づけ，総合，再構成といった思考方法の中から，「関連づける」思考方法に焦点を当て，社会的事象の特色や相互の関連を考える力を高めていく。澤井によると，「関連づける」思考方法とは，複数の情報を「つなげる」思考方法であり，社会科は複数の社会的事象を組み合わせてつなげることで，１つずつのときには見えなかった特色や傾向，意味や意義，背景などが見えるようになるという。

このことから「関連づける」思考方法とは，複数の用語や社会的事象を組み合わせてつなげる思考方法のことであり，社会的事象の特色や相互の関連を考えるのに適した思考方法であると言える。

(3)　「関連づける」思考方法を習得するためには

関西大学初等部では，シンキングツール(思考ツール)を活用した実践を行っている。この学習において，思考ツールは，思考スキル(思考方法)を習得するために活用されている。ここで「関連づける」思考方法を習得するために使用されている思考ツールが，コンセプトマップである。コンセプトマップは，ある事柄に関するキーワード同士を線でつなぎ，キーワード間のつながりを言葉で書き表すことで事柄の構造図を作成し，その構造図から見えてきたことを自分の考えとしてまとめるのに使われる。関西大学初等部の社会科の実践において，コンセプトマップは社会的事象のつながりをとらえるために使われている。

松元(2002)によると,子どもがコンセプトマップを学習の方法として身に付けると，必要な言葉を選択し，言葉と言葉をつなぎながら学習の成果をまとめ，整理していき，情報と情報を適切に関連づけ，構造化しながら自分なりの見方や考え方を構築していくようになるという。

このことから，思考ツールとして「コンセプトマップ」を活用することとした。

(4)　社会科における知識の構造図について

北(2011)によると，社会科の知識には，「具体的知識」，「概念的知識」，「用語や語句レベルの知識」があるという。それを構造的に表したものが，「知識の構造図」である。「知識の構造図」では，具体的な「用語・語句レベルの知識」を関連づけたものが１つの具体的な社会的事象である「具体的知識」になり，「具体的知識」である複数の社会的事象を関連づけたときに最終的に導き出される抽象的な知識が，単元の学習内容で身に付けるべき「中心概念(概念的知識)」となる。

そこで，本研究では図１のように，「知識の構造図」における知識の階層に合わせて思考ツールを活用するよう構想した。「知識の構造図」における「用語・語句レベルの知識」を，思考ツールを活用して関連づけることで「具体的知識」を得ることができ，その「具体的知識」を，思考ツールを活用して複数関連づけることで，より上位の知識である「中心概念」を捉えることができると考えた。

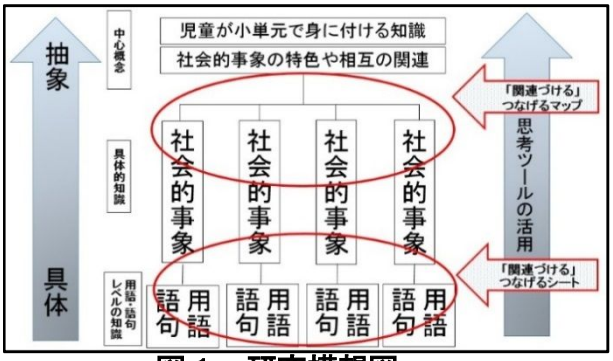


図１　研究構想図

２　研究仮説の設定

コンセプトマップの要素を取り入れた２種類のワークシートを，知識の階層に合わせて段階的に活用することで，児童の「社会的事象の特色や相互の関連について考える力」が高まるであろう。

３　検証授業の計画・実践

(1)　検証授業

ア　単元名・対象

「わたしたちの県の様子ー広島県の様子ー」

第４学年　27 名

イ　期間

平成 26 年 12 月 8 日～平成 26 年 12 月 22 日

(2)　知識の構造図と単元計画の作成

「広島県の様子」の知識の構造図(表１)を基に単元計画(表２)を作成した。また，単元計画を作成する際，「広島県の土地の様子，市や町の様子，交通や産業の様子には，どのような特色があるのだろうか，外国に住んでいる人にしょうかいしよう。」(表２太枠参照)という単元を貫く学習問題を設定した。

表１　知識の構造図

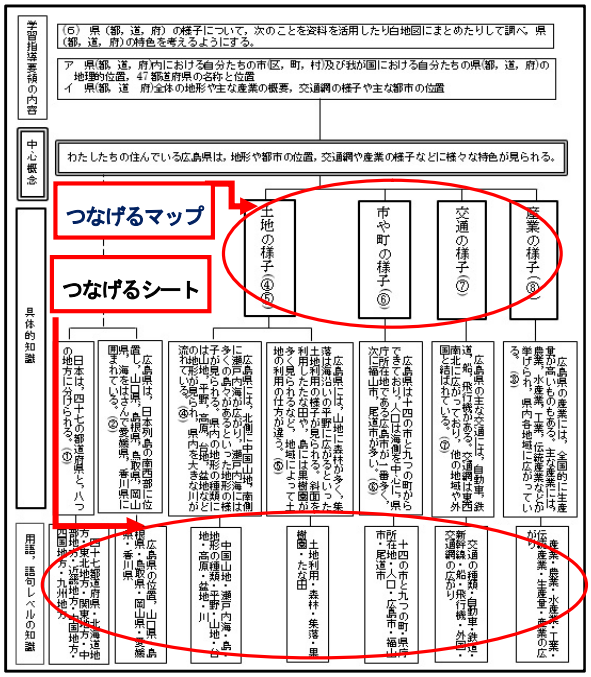


表２　単元計画

過程	学習問題	学習内容
つかむ	① 日本はいくつの都道府県や地方からできているのだろう。	○ 地図帳から日本の都道府県の数や地方の数，名称や地理的位置を調べ，「つなげるシート」にまとめる。
	② 広島県は，日本のどのような位置にあるのだろう。	○ 地図帳から広島県の地理的位置を調べ，「つなげるシート」にまとめる。 ○「広島県の地理的位置を外国に住んでいる人に説明しよう。」という問題について話し合う。
	③ 外国に住んでいる人に，広島県の特色をどのように紹介したらよいのだろう。	○ 広島県の特色をどのように紹介したらよいか話し合う。 ○ 広島県の特色について知っていることを「つなげるマップ」に整理する。
	単元を貫く学習問題：広島県の土地の様子，市や町の様子，交通や産業の様子には，どのような特色があるのだろうか，外国に住んでいる人にしょうかいしよう。	
ふかめる	④ 広島県には，どのような地形の特色があるのだろう。	○ 広島県の地形の特色について調べたことを，白地図や「つなげるシート」にまとめる。
	⑤ 広島県では，どのように土地を利用しているのだろう。	○ 広島県の土地利用の特色について調べたことを白地図や「つなげるシート」にまとめる。 ○「なぜ，地域によって土地の利用の様子がちがうのだろう。」という問題について話し合う。
	⑥ 広島県はいくつの市や町からできていて，人口はどのようにちがっているのだろう。	○ 広島県の市や町の位置や名称を調べ，「つなげるシート」にまとめる。 ○「なぜ，広島県の人口は海側に多いのだろう。」という問題について話し合う。
	⑦ 広島県の交通にはどのようなものがあり，どのように広がっているのだろう。	○ 広島県の交通網を調べ，「つなげるシート」にまとめる。 ○「広島県の交通は，なぜ東西南北に広がっているのだろう。」という問題について話し合う。
	⑧ 広島県の産業にはどのようなものがあり，どのように広がっているのだろう。	○ 広島県の主な産業を調べ，「つなげるシート」にまとめる。 ○「広島県の産業は，なぜ地図のように広がっているのだろう。」という問題について話し合う。
いかす	⑨ 今まで学習したことを関連させると，広島県の特色とはどのようなものだろう。	○ 広島県の特色について分かったことを，「つなげるマップ」に整理する。
	⑩ 広島県の特色を，外国に住んでいる人に紹介しよう。	○ 広島県の特色について紹介したいことを，ワークシートにまとめ，紹介する。(評価問題)

(3)　指導法の工夫

学習内容を関連づける思考ツールとして，コンセプトマップの要素を取り入れたワークシート２種類(「つなげるシート」，「つなげるマップ」)を作成し，授業で活用した。

ア　思考ツール「つなげるシート」の活用

１つ目は，第４時から第８時に使用する「つなげるシート」(図２)である。これは，知識の構造図における下位の知識である「用語や語句レベルの知識」を関連づけて，「具体的知識」を得るための手立てである。

「つなげるシート」の上段の３つの枠の中に，本時の授業で学習した用語や小単元の中で学習した用語や語句をそれぞれ書き入れ，下段の枠に，それらの用語や語句を関連づけて，１つの社会的事象について記述できるようにした。「つなげるシート」の評価は，評価基準(表３，４ページ参照)を作成した。

また，ワークシートには自己評価欄を設け，児童が関連づけて考えることができたかどう

か振り返ることができるようにした。自己評価は「はい」,「どちらかというとはい」,「どちらかというといいえ」,「いいえ」の４段階で行うことにした。

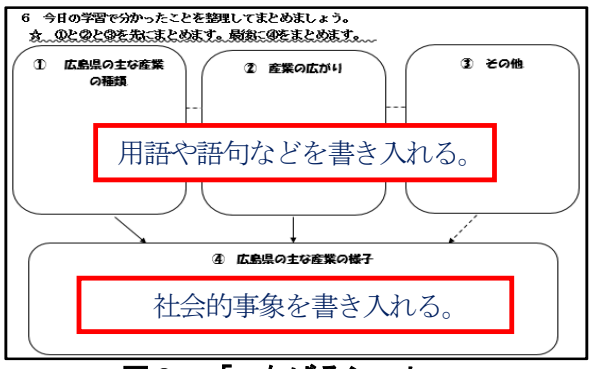


図２　「つなげるシート」

表３「つなげるシート」の評価基準

判定	評価基準
A	用語の関連を十分に理解しながら，複数の用語を関連づけて社会的事象について記述している。
B	複数の用語を関連づけて，社会的事象について記述している。
C	複数の用語を関連づけて，社会的事象について記述できていない。

イ　思考ツール「つなげるマップ」の活用

２つ目は,「つなげるマップ」(図３)である。授業で学習した社会的事象を複数関連づけて,知識の構造図における上位の知識である「中心概念」を得るための手立てとして活用した。「つなげるマップ」はコンセプトマップの要素を取り入れており，社会的事象同士をつなげて，それらを関連づけた理由を記述するようにした。また，付箋を使用して，その他の社会的事象を付け加えられるようにした。

この「つなげるマップ」を単元導入部である第３時と，単元終末部である第９時に使用し,児童の社会的事象の特色や相互の関連について考える力の変容を見取った。「つなげるマップ」の評価は，評価基準(表４参照)を作成して行った。

また，この「つなげるマップ」では，児童の実態を考慮し，枠の中に「つなげるシート」にまとめた社会的事象に関する内容を書き込めるようにした。中央の枠には関連づけて考えた社会的事象の特色を記述できるようにするなど，児童が複数の社会的事象をより関連づけて考えることができるように考慮した。

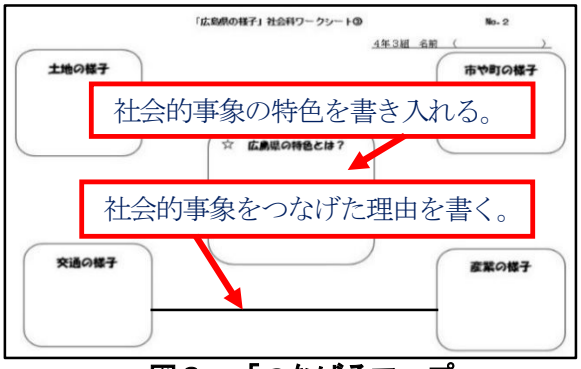


図３　「つなげるマップ」

表４　「つなげるマップ」の評価基準

判定	評価基準
A	「土地の様子」,「市や町の様子」,「交通の様子」,「産業の様子」の4つのキーワードの枠のうち3つの枠をつなげ，それらを線でつなぐ際，結び付く理由を書くことができている。
B	「土地の様子」,「市や町の様子」,「交通の様子」,「産業の様子」の4つのキーワードの枠のうち2つの枠をつなげ，それらを線でつなぐ際，結び付く理由を書くことができている。
C	「土地の様子」,「市や町の様子」,「交通の様子」,「産業の様子」の4つのキーワードを結び付く理由を付けて線でつなぐことができていない。

４　検証授業についての分析と考察

「つなげるシート」,「つなげるマップ」を活用した指導法の工夫が,「社会的事象の特色や相互の関連を考える力」を高める手立てとなったのかどうか，検証授業を行い，分析と考察を行った。

(1)「つなげるシート」について

ア　第４時から第８時の「つなげるシート」の達成度と，児童の「関連づける」意識の変容

「つなげるシート」を使用した第４時から第８時の評価基準の達成度をグラフ(図４，５ページ参照)に提示した。図４を見ると，B 評価以上の児童が第４時 66.7%から第８時では 85.2%に増加している。C 評価の割合が減り，B 評価の割合が増えている。C 評価の児童が減っていることから,「つなげるシート」は特に

C 評価の児童の手立てとして有効であると考える。

一方, A 評価の児童の割合は増減を繰り返している。その理由は学習内容の難易度によるものだと推測する。

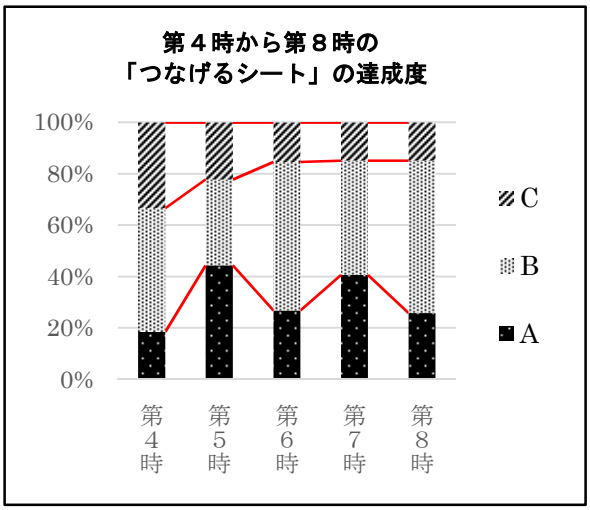


図４　第４時から第８時の「つなげるシート」の達成度

また，児童の自己評価における「関連づけて考えることができた」という項目を点数化し，平均を出した。これを児童の「関連づける」意識と捉え，「つなげるシート」の達成度との相関を分析した。３名の児童の自己評価は，適切な振り返りが行われていなかったと考えられたため，24 名で相関分析を行った。その結果，表５のように有意な正の相関が認められた。

この結果から，「つなげるシート」を毎時間使用することで，児童の関連づける意識が高まり，達成度が向上したことが窺える。「つなげるシート」は児童に関連づける思考を意識させ，複数の用語を関連させて社会的事象を捉えることに有効であったと考える。

表５　「つなげるシート」の達成度と児童の「関連づける」意識の相関

(Peason の積率相関係数)

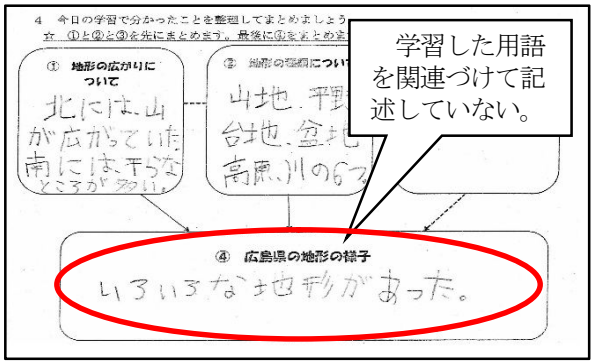
n=24

	児童の関連づける意識
「つなげるシート」の達成度	0.71*

*p <. 05

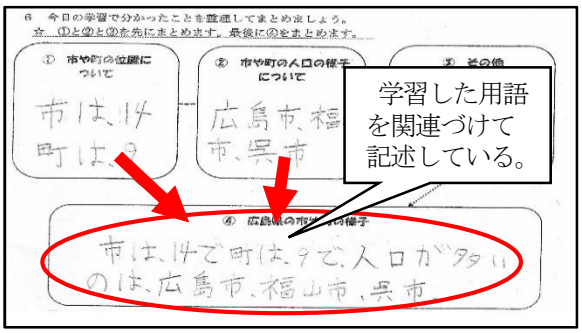
次に，抽出児の A 児，B 児の記述から「つなげるシート」を分析する。抽出児 A は，第５時まで「つなげるシート」の活用ができなかった児童である。

資料１　A 児の第４時の「つなげるシート」



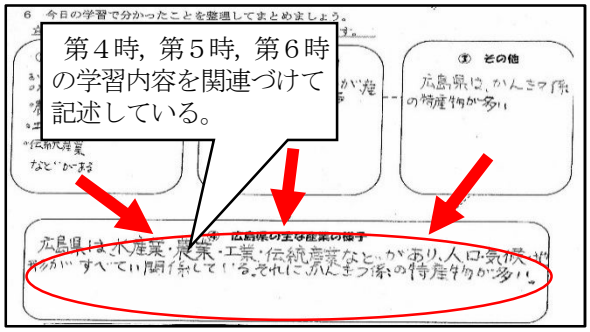
資料１は, A 児の第４時の「つなげるシート」である。「広島県の地形の様子」について「いろいろな地形があった。」とだけ記述している。A 児は第４時の段階では，用語や語句を関連づけて「地形の様子」について記述することができておらず，「つなげるシート」を活用することができていなかった。

資料２　A 児の第６時の「つなげるシート」



しかし, A 児の第６時の「つなげるシート」(資料２)では，「市や町の様子」について，上段の枠の学習した用語を使って，下段の枠に記述することができていた。記述内容はまだ十分とは言えないが，A 児は「つなげるシート」を活用し，社会的事象を捉えていた。A 児は第８時においても，社会的事象を捉えることができていた。

資料３　Ｂ児の第８時の「つなげるシート」



資料３は Ｂ 児の第８時の「つなげるシート」である。Ｂ 児は，産業の様子について「人口，気候，地形が関係している。」と記述している。「人口」は第６時の「市や町の様子」，「気候，地形」は第４時と第５時の「土地の様子」の学習内容である。Ｂ 児は，学習した複数の社会的事象を関連づけて産業の様子を考えていた。

Ａ 児の記述から，児童は授業を重ねるごとに「つなげるシート」を活用することができるようになり，用語や語句を関連づけて下位の知識である社会的事象を捉えることができることが分かった。また，Ｂ 児のように「つなげるシート」を活用する段階でも，用語や語句に付け加えて複数の社会的事象を関連づけて考えている児童もいたことが分かった。

(2)　「つなげるマップ」について

ア　小単元導入部と終末部での「つなげるマップ」の変容

児童が第３時と第９時で作成した「つなげるマップ」を評価した。（表６）この結果について t 検定を行った結果，表７のように第３時と第９時において有意な差が見られた。

表６　第３時と第９時の「つなげるマップ」のクロス集計表（人）

n=27

	C	B	A	計
C	6	4	5	15
B	0	4	5	9
A	0	0	3	3
計	6	8	13	27

表７　「つなげるマップ」の第３時と第９時の比較

	t 値	p 値
社会的事象の特色や相互の関連について考える力	4.71*	0.00004

***p ＜ .001

表６を見ると，第３時ではＢ評価以上が 12 名だったが，第９時にはＢ評価以上が 21 名になり，全体的な向上が見られた。しかし，６名の児童がＣ評価であった。

表８はその６名の児童の「つなげるシート」の達成度である。

表８　「つなげるマップ」Ｃ評価の児童の「つなげるシート」の達成度

児童	第４時	第５時	第６時	第７時	第８時
①	C	C	B	B	B
②	B	A	A	B	A
③	C	C	C	C	C
④	C	C	C	C	C
⑤	B	B	B	C	C
⑥	C	A	B	B	B

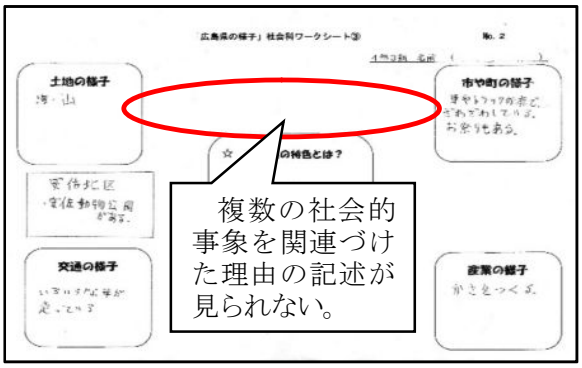
①②⑤⑥の４名は，複数の社会的事象を線で結んだ理由を，線の下ではなく他の箇所に記述しており，記述の仕方を理解できていなかったことによるＣ評価だった。記述の仕方は間違っていたものの，複数の社会的事象を関連させている記述が見られたため，関連づけて考える力は身に付いていた。

太枠で囲んだ③④の２名の児童の「つなげるシート」を見ると，資料から用語自体を取り出すことができていなかった。資料をテレビに映したり，黒板にキーワードを提示したりするなどの視覚支援や，机間指導の際に地図帳の使い方やグラフの読み取り方を指導するなどの個別の支援を行っていたが，資料から用語を取り出すことができていなかった。表８のように，「つなげるシート」の活用ができなかったため，「つなげるマップ」の活用もできていなかった。この２名には，「つなげるシート」を活用する段階で，地図帳の使い方やグラフの読み取り方

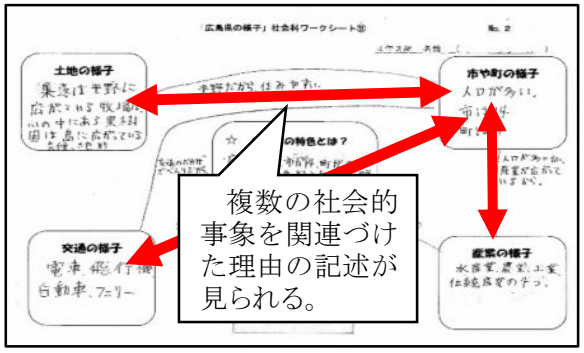
といった基礎的な資料の読み取り方を丁寧に教える必要があった。

しかしこの２名においても，第９時の「つなげるマップ」では，個々の社会的事象の記述は見られるようになっていた。複数の社会的事象を関連づけた記述は見られなかったが，社会的事象を捉えようとする意識の高まりは，窺うことができた。

資料４　A 児の第３時の「つなげるマップ」



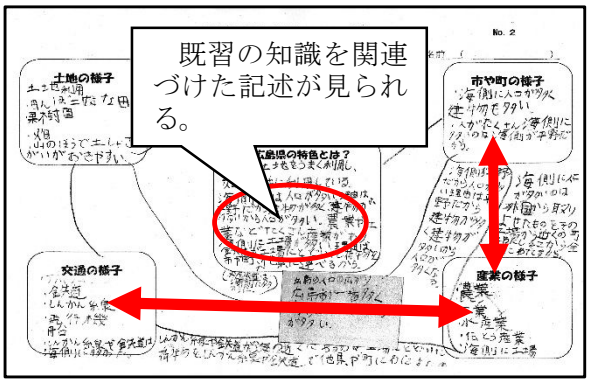
資料５　A 児の第９時の「つなげるマップ」



次に，資料４は，前述の A 児が第３時で作成した「つなげるマップ」である。これを見ると，A 児は複数の社会的事象を線で結んでおらず，第３時では社会的事象を関連づけて記述することができていなかった。だが，第９時で作成した「つなげるマップ」(資料５)では，複数の社会的事象を線で結び，結んだ理由を記述できていた。例えば，「市や町の様子」と「産業の様子」を線で結んだ理由を，「産業が海側に広がっているのは，人口の多い所に産業が広がっているから。」と記述している。「市や町の様子」と「産業の様子」を関連づけて「広島県の特色」について考えていることが分かる。その他にも A 児は，複数の社会的事象を線で結び，その理由を記述することができていた。

資料６は C 児の第９時の「つなげるマップ」である。C 児は「つなげるシート」の活用ができていた児童である。

資料６　C 児の第９時の「つなげるマップ」



C 児は，「工場は海の近くにある。」という既習の知識を，「市や町の様子」，「交通の様子」，「産業の様子」などの社会的事象と関連づけて考えていた。「海側は平野だから人口が多く，人口が多いから工場も多い。また，海側に工場が多いのは，海側に広がっている交通網を使って，工場で生産したものを他の市や町，他県に運べるからだ。」と工場が海側にある理由を記述していた。さらに，「広島県は地形や交通を上手に利用して発達している。」と広島県の特色を記述していた。C 児は「つなげるマップ」を活用して複数の社会的事象を関連づけるだけでなく，既習の知識まで関連づけて「広島県の特色」について考えており，広島県の見方，考え方を広げていた。

以上のことから，A 児や C 児のように「つなげるシート」の活用ができていれば，「つなげるマップ」を活用してそれらの社会的事象を複数関連づけることができ，上位の知識である中心概念を捉える手立てになっていたと言える。「つなげるシート」と「つなげるマップ」を知識の構造図の知識の階層に合わせて段階的に

活用することが，児童にとって社会的事象の特色や相互の関連を捉えるのに有効であったと考察する。

しかし，逆に「つなげるシート」の段階で活用ができていないと，「つなげるマップ」は活用することができていなかった。この点から「つなげるシート」を活用する段階で，「関連づける」思考方法を習得しておくことが，「つなげるマップ」を活用する前提条件であると考えられる。

(3)　評価問題による全体の検証

ア　評価問題の設定

「つなげるシート」と「つなげるマップ」を活用して社会的事象の特色や相互の関連を考える力が高まったかどうかを検証するために，評価問題を単元終末部に設定した。資料７の課題を提示し，表９の評価基準を作成し評価した。評価基準は，「つなげるマップ」の評価基準に合わせて，A，B，C で評価を行った。

資料７　評価問題

現在広島県は，外国から来る人に人気があるスポットです。しかし，外国から来る人は宮島や原爆ドームと主な観光地を知っていても，広島県全体のことはよく知りません。そこで，広島県の全体のことを外国に住んでいる人によく知ってもらうために，今までの学習を活用して，広島県の特色を分かりやすくしょうかいする文章を考えましょう。

表９　評価問題の評価基準

判定	評価基準
A	広島県の様子について，「土地の様子」，「市や町の様子」，「交通の様子」，「産業の様子」のキーワードのうち3つを関連づけて広島県の特色を考え，説明している。
B	広島県の様子について，「土地の様子」，「市や町の様子」，「交通の様子」，「産業の様子」のキーワードのうち2つを関連づけて広島県の特色を考え，説明している。
C	広島県の様子について，「土地の様子」，「市や町の様子」，「交通の様子」，「産業の様子」のキーワードを関連づけずに広島県の特色を考え，説明している。

イ　評価問題の結果

図５は評価問題の結果である。A，B 評価を合わせると 24 人になり，学級全体としては概ね関連づける思考方法を活用して社会的事象の特色や相互の関連を捉えることができていた。

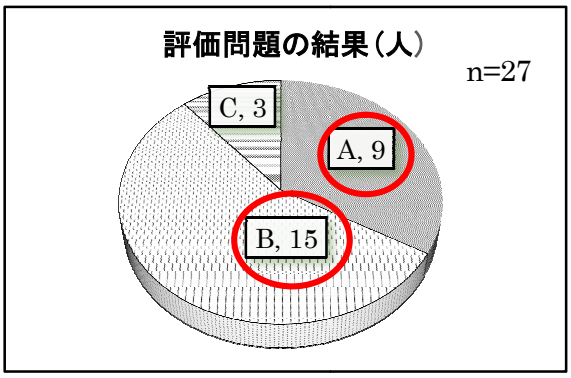


図５　評価問題の結果

一方，３名の児童が C 評価であった。C 評価の児童３名のうち２名は，前述の「つなげるマップ」でも C 評価だった２名である。これまでの「つなげるシート」と「つなげるマップ」の活用ができておらず，評価問題でも社会的事象の特色や相互の関連を捉えることは難しかった。この２名には「つなげるシート」活用段階において，十分な個別支援が必要であった。

もう１名は，「つなげるシート」と「つなげるマップ」の活用はできていたものの，記述そのものが苦手なため，記述ができなかったと考える。評価問題の形式を児童の実態に合わせて工夫する必要があった。

Ⅴ　研究のまとめ

1　成果

(1)　社会的事象の特色や相互の関連について考える力の向上

「つなげるシート」と「つなげるマップ」の活用は，知識を段階的に関連づけて思考する手立てとして，有効であったと考える。「つなげるシート」と「つなげるマップ」を活用して，段階的に知識を関連させることで，児童は「具

体」と「具体」を関連させながら，より抽象的な知識を得て，単元の最後には社会的事象の特色や社会的事象の相互の関連といった中心概念を捉えることができるようになっていた。

(2)　「関連づける」意識の高まり

「つなげるシート」と「つなげるマップ」の活用が，児童の関連づける意識を高めるための手立てとなり，児童の社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることにつながった。

以上の成果から，本研究における手立てが，児童の社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるのに概ね有効であったと考える。

2　課題

(1)　「つなげるシート」と「つなげるマップ」を活用するための基礎的能力の習得

「つなげるシート」と「つなげるマップ」を活用するためには，資料から情報を読み取る力と思考ツールの使い方の理解という基礎的能力が必要であることが分かった。資料から情報を読み取ることができなかった児童には，地図帳の使い方やグラフの読み取り方など資料から必要な情報を取り出すなど基礎的な資料の読み取り方の習得が必要である。思考ツールの使い方を理解できなかった児童には，使い方を具体的に例示するなど，詳しく説明する個別支援が必要である。

(2)　児童の実態に応じた評価問題の設定

今回記述という形で評価問題を行ったため，書くことに抵抗感のある児童にとっては，難しい課題になっていた。図や表に表すことができるような形式の問題を設定していれば，記述が苦手な児童も自分の考えをまとめやすかったのではないかと考える。児童の実態を把握し，実態に応じた評価問題の工夫が必要である。

以上のような課題を踏まえ，思考ツールを活用して考える力を高める授業を今後も展開していきたい。

【引用文献】

1）2）文部科学省『小学校学習指導要領　社会科解説編』東洋館出版社　2008 年，15 頁，20 頁

3）　澤井陽介『小学校社会科授業を変える 5 つのフォーカス「よりよい社会の形成に参画する資質や基礎」を培うために』図書文化，2013 年，62 頁

【参考文献】

①　関西大学初等部『関大初等部式思考力育成法』さくら社，2012 年

②　関西大学初等部『思考ツールを使う授業』さくら社，2014 年

③　北俊夫『社会科学力を作る“知識の構造図”』明治図書，2011 年

④　澤井陽介『小学校社会科授業を変える 5 つのフォーカス「よりよい社会の形成に参画する資質や基礎」を培うために』図書文化，2013 年

⑤　広島大学附属東雲小学校『小学校教育に求められる基礎・基本を問う』東洋館出版社，2006 年

⑥　松元博志，『子どもにとって，コンセプトマッピングってどんなもの』，福岡敏行(編)『コンセプトマップ活用ガイド「マップでわかる！子どもの学びと教師のサポート」』東洋館出版社，2002 年